

令和5年度資料調査員会議 議事録

司会：新津副館長兼学芸部長

記録：文献史料課 鈴木

日時：令和5年6月29日（木） 13：30～15：00

場所：県立歴史館会議室

議事内容については、次第および進行要領の通り進行した。

1 開会（司会：新津部長）

2 特別館長あいさつ（主旨）

- ・本日信毎報道のあった「公文書館」答弁、そして県史編さんに向けた取組み。
- ・その前提として資料を確認し、地域の研究状況について把握することを、今まで通りご協力ご教示いただきたい。

3 出席者自己紹介および話題提供

※話題提供の主なもの

- ・文書館・公文書館ができたことで、地域から認知され、古文書の寄贈や勉強会などに進展がみられるようになった。
- ・佐久穂町では、北沢の大石棒について、文化財指定を目指して取り組んでいる。旧八千穂町ではふるさと遺産収蔵館の計画が持ち上がっている。
- ・小諸市の重要文化財について。小諸城三蔵門の修復修理が9月に完成予定。本陣問屋場が小諸市・国の支援を受けて、今後の見学開放にむけて、内部の状態を調査中。
- ・昨年度、諏訪地域御柱祭に合わせた、諏訪神宮寺プロジェクトでの神宮寺旧蔵仏像の一斉公開事業、23か寺と諏訪市博等の連携、調査・観光含めて盛り上がりがあった。今後、御柱に合わせて開催しようとの検討もある。
- ・新しい伊那市史（伊那市・高遠・長谷村の合併）の編纂について、昭和50年以降の伊那市の様子を記録していこうとしているが難しい部分もある。松本市・安曇野市等、先行自治体の助言をいただきながら進めている。
- ・松本で話題になっているのが開智学校開校150周年。信毎でも特集。建築資料などは注目度が高い。一方で、管内の学校にある資料の保存・整理に課題を感じている。
- ・古文書の保存状態に課題がある。蔵の建て替え、後継者不足、空き家など。文書館ができたことで寄贈推進ができるようになった。一方で、早くも収蔵スペースの問題が起こってきている。
- ・大町市文化財センターには、若手が多くいる。古地図・絵図を用いて、地域の歴史を学ぶ講座を企画して取り組んでいる。
- ・歴史資料に重きが置かれるようになり、歴史系学芸員の採用や博物館の設立などが千曲市で実現した。現在地域の土蔵を調査している。八幡の旧家の土蔵の取り壊しに際した調査では、数千点の村方文書等が出てきた。
- ・米子大瀑布の林道が、台風19号以来復旧開通した。但唱上人の旧跡や、他にも良い滝がある。
- ・長野市では、博物館と公文書館とで連携して、寄贈された地域史料の棲み分けを行なうなど、施設同士の協力体制を図っている。

- ・コロナ後の総会・史跡巡りが復活しつつある。
- ・明治19年頃の直江津線のトンネル工事には、現在大分県宇佐市で朝ドラ主人公にしようという運動も起こっている、役人南一郎平が関わっている。『穀物出入日経簿』には、参加するそれぞれの組への米等の支給量が記載されているが、中に南傘下の組の名前があったり、その内の一人の人物の墓や記念碑があることが分かった。しかも記念碑は善光寺にある。今まで気づかなかったところに新たな発見がある。既知とされるものについても見直す必要性を感じた。
- ・調査する中で、「所在不明」、「見せません」（調べるのが面倒で？）という所蔵者が増えてきた。
- ・「ある公立博物館に文書を持って行ったものの見てもらえなかったの、見てもらえませんか」と自分のところに所蔵者が直接来ることもあった。
- ・工芸品の資料的扱いをどうするか、地域の方に知ってもらうかを考えている。
- ・『栄村誌』発刊の際、個人宅に声掛け、ほぼすべての資料が村の管理になった。文書目録を発刊している（これから整理の資料もある）。

4 議事

（1）調査員活動について

○村石文献史料課長より資料説明

- ・【資料6】令和4年度 県立歴史館資料調査員報告書
※反映できなかったものは、次年度の報告書に反映させていただきたい
- ・調査員証は新しいものに差し替えて古いものは破棄していただきたい
- ・【資料2】令和4年度 資料調査員報告概要（別冊5頁）
- ・【資料3】調査員活動について（別冊6頁）
- ・【資料4】調査内容 調査員の役割、とくに微に入るような調査を地域で資料調査（①史資料の情報②歴史関係刊行物③歴史関連諸団体の活動状況）をお願いしたい。
- ・所蔵者リスト（秘）について、新県史編さんにあたって、基礎情報として重要なため、所有者の代替わり、資料の所在で何か変化があれば、更新して欲しい。
個人情報については配慮（とくにホームページ掲載の際）しつつ、史資料・歴史刊行物・団体情報を教えてほしい。
- ・市町村とのやり取りの中で、古文書流出の危機についての情報提供や、仲介などお願いしたい。
- ・当館ホームページ上の情報公開に際し、公開に支障がある場合は、事前に該当欄にチェック等を入れてほしい。
- ・報告は2か月に1度（8頁参照）、メール添付で「報告書」（【資料5】）。データでいただけるとありがたい。

質疑応答

（特になし）

（2）各地域の話題

○村石文献史料課長より、流出文書の状況について【資料7】令和4年度収集文書（9頁）から説明。

- ・ネットオークションに古文書が出品されることが増えてきた。とりわけ、バラで売りに出された場合、家の情報が消えてしまうので危惧している。
- ・大町曾根原家文書、佐久郡長土呂村角田家資料など重要な文書を購入した。
- ・購入については地域のバランスを考えて購入していく。寄贈・緊急流出は別としても。

- ・資料の防災・救出ネットワーク。今後の県史編さんが動いていくことになろうかと思うが、旧県史に収録した資料が30年後に無いということがないようにしたい
- ・資料散逸について、文書館・公文書館が最後の砦として、取り組んでいきたい。
- ・広報チラシ（13頁参照）を配布している。皆さん方の力をお借りしつつ、地域史料の保存に努めていきたい。

質疑応答

調査員1：県立高校の統合などに伴う資料の保存調査について、何か話が進んでいることはあるか。

村石課長：高校に限らず義務教育も含めた学校の統廃合に伴う、学校単位で持っている資料の散逸の虞があることは承知している。危機感を持っている現状はあるが、全体数を把握することが難しい状況がある。地域の調査員の方々に、学校保有の資料についても、関心をもって調査していただけるとありがたい。

他にも郡の教育会などとの連携も考えられる。

調査員2：下伊那教育委員会においては、教育会本体の資料は大丈夫だと思うが、学校の場合、事務職員の終戦を挟んだ保存意識の変化があることを感じている。戦前のものは残されているが、戦後のものがごそっと捨てられている実態が調査をして分かった。

村石課長：公文書管理条例ができて、県立学校は県の施設のため、公文書として入ってくる余地があるが、義務教育は市町村の管轄なので対象に入っていない課題がある。

調査員3：公文書ではないが、学校が持っている考古資料の存在についても危機感を持っている。以前寄贈してほしいと申し入れたところ、県立なので市町村教委には渡せないと言われてしまった。そしてその後、再調査した時には所在が分からなくなっていた。県の方からも保存に努めるよう声掛けしてほしい。

調査員4：新しい臼田小学校の統合に際して、旧青沼小学校に学校資料の資料館をと、青沼地区会長が保存について動いている。佐久市でも組織立って資料保存に動いていく必要性を感じている。歴史館でもできることはお願いしたい。

新津副館長：昨年まで学校現場に在中で、学校資料の整理（目録化）・保存の必要を感じてきた。学校側にも意識を伝えていきたい。

5 閉会（あいさつ：塩沢館長）（主旨）

- ・最後に議論になった学校資料については、県立歴史館単独だけでは全県を網羅することは難しい。市町村の教育委員会との連携が必要であるので、本庁とも認識を合わせつつ、全県的な取り組みが必要と認識している。
- ・調査員の方々のお知恵を借りつつやっていきたい。
- ・歴史館では、建物の老朽化（資料保存に直結する空調）などの課題や、昨年度来の(新)県史の動きについて、これから具体化に向けて動いていくことになろうかと思う。
- ・昨日の県議会で、法的な位置づけとしての「公文書館」設置を知事が表明したことは、歴史館にとって非常に大きな動きになっていくと思う。歴史館を前に進めていくための契機・転機と考えている。
- ・日々の地道な調査員の方々の活動を通じて、今後ともバックアップいただきたい。